

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No4
平成24年5月8日

全校朝礼の話より (5月7日)

新しいクラスになって約1か月が過ぎました。新しい友達はできましたか。さて、日本全国に小学生が何人いると思いますか。700万人以上いるのです。6年生だけ考えてみると、100万人以上いる中で、同じクラスになった友達はたった40名弱です。世界中で考えたらもっとすごい数の中のたった40名弱ですよ。同じクラスになったことは奇跡です。また、たった一人の担任の先生との出会いも奇跡です。この奇跡的な出会いを大切にしてください。

そして、みんなが伸び伸びと育つクラスを創ってほしいと思います。そこで、今日は、蒔田真治作「教室はまちがうところだ」という詩を紹介します。

詩「教室はまちがうところだ」 蒔田真治

教室はまちがうところだ。みんな、どしどし手を上げて。まちがった意見を言おうじゃないか。まちがった答えを言おうじゃないか

まちがったことを恐れちゃいけない。まちがった者を笑っちゃいけない。まちがった意見を、まちがった答えを、ああじゃないか、こうじゃないかとみんなで出し合い、言い合う中で、本当のものを見つけていくのだ。そうして、みんなで伸びていくのだ。

いつも正しくまちがいのない答えをしなきゃならんと思って、そういうことだと思っているからまちがうことが怖くて怖くて、手を上げないで小さくなって、黙りこくって時間が過ぎる。仕方がないから先生だけ、勝手にしゃべって、子どもはうわの空。それじゃちっとも伸びていけない。

安心して手を上げろ。安心してまちがえや。

まちがったって、笑ったり、馬鹿にしたり、怒ったり、そんな者はおりやあせん。

まちがったって誰かがよ、直してくれるし、教えてくれる。困った時には先生が、

ない知恵しぼって教えるで。そんな教室つくろうやあ。お前へんだと言われたって、あんたがまちがうと言われたって、そう思うだからしょうがない。

誰かが仮にも笑ったら、まちがうことがなぜ悪い。まちがってることわかればよ、

人が言おうが言うまいが、おらあ自分で改める。わからなけりやその代わり、

誰が言おうと小突こうと、おらあ根性まげねえだ。

そんな教室つくろうやあ。

ハーバード大学の授業

ハーバード大学の授業が脚光を浴び、NHK教育テレビでも「ハーバード白熱教室」という番組が話題を呼びました。その中でも履修学生の数が高記録を更新した授業が政治哲学のマイケル・サンデル教授の授業「Justice (正義)」です。大学の劇場でもある大教室は、毎回1000人を超える学生がぎっしり埋まり、あまりの人気ぶりにハーバード大学では、授業非公開という原則を覆し、この授業の公開に踏み切りました。ハーバード大学の授業が一般の目に触れるのは、史上初めてのことでした。

ハーバードの授業は、「正しいか、正しくないか」が問題ではなく、**根拠に基づいて、いかに自分の考えを述べるか、独創的な考えを示せるかに重きが置かれています。**

それに対して、日本の教育は、どちらかと言うと正解だけを求め、間違った意見、少数派の意見を出しにくい雰囲気を作り上げ、物言わぬ児童・生徒、学生、大人を育ててきてしまいました。

ハーバードの授業には及ばないにしても、桜小の授業でもこの蒔田真治さんの詩にあるように、まちがうことを恐れず、まちがった意見やまちがった答えをどんどん言い合う中で、本当のもの、真理を見つけていけたらと考えています。